

2025年度
事業計画書

自：2025年4月 1日
至：2026年3月31日

公益財団法人 三康文化研究所

目 次

1. 公 開 講 座
2. 研 究 座 談 会
3. 研 究 会
4. 研究冊子の刊行
5. 学 会 参 加
6. 附 属 図 書 館
7. 収益事業(建物賃貸業)

1. 公開講座(オンライン、および会場開催)

① 公開講座 年2回

在室研究員が講師となり、研究に関心のある方を対象に開催する。

※テレビ会議システム(zoom)と会場(閲覧室)にて開催する。

2. 研究座談会

① 研究座談会 年2回

在室研究員が中心となり、これを開催する。

3. 研究会(オンライン、および会場開催)

(会名下の()内は、在室研究員による担当者を示す)

① 原典研究会(西村実則・古宇田亮修) 年3回

梵本・パーリ本の仏典を中心に対比較合輪読。

梵本『ニダーナサンユクタ』、『雑阿含経』の研究。

※2023年度、2024年度は、メンバーの体調不良により年6回開催する予定が、実際には、年3回の開催に変更になったことから、2025年度は年3回開催(予定)とした。

② 日本仏教史研究会(宇高良哲) 年10回

日本仏教史に関わる基礎的文献の調査と整理と検討。

川越蓮馨寺日鑑の解説作業。

増上寺所蔵『知恩院宮尊超法親王南東下向記』の解説作業。

③ 浄土教典籍研究会(林田康順・柴田泰山・石川琢道) 年6回

了誉聖問『顕浄土伝戒論』の研究・輪読。

4. 研究冊子の刊行

① 年報の刊行

第56号 A5判・約150頁

300部・年1回

② 所報の刊行

第60号 A5判・約50頁

200部・年1回

5. 学会参加 1学会あたり年1回参加(オンラインでの参加も含む)

関係大学・団体の主催する学会に在室研究員参加

6. 附属図書館

① 管理

蔵書を適切に保管し、利用者に提供するために書庫および資料管理を行う。

○書庫環境管理

年間を通じた温湿度の測定と空調管理

年2回の書庫内清掃の実施

○カビ・虫害対策

委託業者によるIPM(Integrated Pest Management 総合的病虫害管理)の実施
(IPM実施後、2ヶ月後に点検し、状況に応じて対応する)
資料のデータ入力時における資料清掃の実施

○劣化資料保存対策

酸性紙の酸化による劣化防止対策の実施(委託業者による脱酸処理)
資料の修復・修理(委託業者による破損資料の修復・修理)
職員による資料の補修並びに保護処置(資料のデータ入力時および閲覧出納時)

② 蔵書に必要な資料の受入と公開

蔵書に必要な資料(宗教、哲学、旧大橋図書館の蔵書に関連する資料や、欠本資料等)を選書し、購入するとともに、他機関(図書館、大学、研究所等)刊行物と三康文化研究所刊行物との寄贈交換等により資料を収集する。また、受入資料はデータ入力後、速やかにインターネットで検索できるようにする。

③ 蔵書資料のデータおよびデジタル画像データ作成とインターネット公開

当館では旧大橋図書館の蔵書を中心に、当法人設立以降に収集した資料や各種文庫等の資料を所蔵している。これらの資料についてデータを作成し、インターネット公開し、検索できるようにしている。現在インターネットで検索できる資料は全体の51%であるが、これらのデータは、2023年3月から「国立国会図書館サーチ」(「⑥他機関との連携」参照)にも提供し、当該システムで検索が可能になり、新たな利用者が創造されるようになった。また、本来は、検索手段がない分野の自然科学、工学資料データ作成を優先すべきであるが、これらの分野よりも、地理地誌分野の資料利用のニーズが高いことから、当該分野の冊子体目録記載情報のデータを作成し、当館の蔵書検索(ライブファインダー・ウェブ(OPAC))、および「国立国会図書館サーチ」で検索出来るようにする。今年度もデータ作成を継続して実施する。なお、文学分野は、2024年3月にデータ作成を終了して、インターネットでデータを公開した。国書分野は、2025年3月にデータ作成を終了する予定である。
データ作成予定分野、データ公開状況は次の通りである。

(イ) データ作成予定分野

○現在検索手段がない分野

- ・旧大橋図書館の蔵書
自然科学、工学
- ・湯山文庫の外国語資料の一部

○冊子体目録で資料を探す分野

- ・旧大橋図書館の蔵書
地理地誌、欧文書、漢籍
- ・三康図書館設立(1964年)以降の蔵書
内田文庫、増谷文庫

○書名五十音リストで資料を探す分野

- ・旧大橋図書館蔵書
歴史、伝記、語学、教育

○カード目録で資料を探す分野

- ・三康図書館設立(1964年)以降の蔵書
2001年度以前の受入図書
- ・竹田宮家文庫

(ロ) 現在ホームページで蔵書検索が可能な分野

- ライブファインダー・ウェブ(OPAC)による蔵書検索
 - ・旧大橋図書館蔵書
総記、哲学・宗教、政治、法律、経済、財政、統計、社会学、風俗習慣・民俗学、国防・軍事、産業、芸術、文学、児童書、工学の一部、憲秩素本
 - ・三康図書館設立(1964年)以降の蔵書
2001年度以降受入図書、雑誌、同人誌、湯山文庫雑誌、湯山文庫日本語・外国語図書の一部、椎尾文庫
- 書名五十音リストによる蔵書検索
 - ・旧大橋図書館蔵書
歴史、伝記、語学、教育

(ハ) 今年度データ作成作業計画

- 旧大橋図書館資料のデータ入力、および蔵書検索「ライブファインダー・ウェブ」へのデータ投入と公開。地理地誌(2025年度終了予定)、自然科学(2026年度終了予定)
- 2021年11月1日に寄贈された椎尾弁匡旧蔵資料の整理と基礎調査(2024年度現在中断、作業再開時期については未定)、データ入力および目録作成(基礎調査終了後実施予定)
- 湯山文庫外国語資料のデータ入力、および蔵書検索「ライブファインダー・ウェブ」へのデータ投入と公開(旧大橋図書館資料のデータ入力がすべて終了した後に再開する予定であるため作業終了時期については未定)

(二) 雑誌目次情報の提供および公開

- 外部機関へ雑誌目次情報を提供し、当該機関が雑誌目次データを作成し2024年12月から商用データベースで公開している。今年度も、雑誌目次情報を継続して提供する。また、当該雑誌目次データを当館に提供いただき、当館ホームページでも閲覧できるように公開を進める。

(ホ) 蔵書資料のデジタル画像データ作成および公開

- 古典籍(江戸時代の版本・写本)および明治時代以降の書翰類等のデジタル画像データを作成し、当館ホームページで閲覧できるように公開を進める。

④ 利用者へのサービス

(イ) インターネットにおける情報発信、蔵書検索(OPAC)の充実

- ホームページ、Facebook(フェイスブック)、X(エックス)の運用の充実
- VR(バーチャルリアリティ)を利用した書庫・蔵書紹介
- マスコミ等を利用した情報発信

(ロ)第3日曜日の開館

利用者から土日開館の要望が増え、また、近隣にある一般財団法人機械振興会館BICライブラリが2024年4月から第3土曜日の開館を開始したこともあり、当館においても、試験的に2024年7月から第3土曜日の開館を実施した。その結果、第3土曜日の御利用者数は、12月までの6ヶ月間で、平日の約2倍となった。第3土曜日開館は、2025年3月で終了し、2025年4月からは、試験的に第3日曜日を開館する。

(ハ)その他

○利用者への書庫案内

※来館者への書庫案内、学生や他機関職員等の団体に向けて開催する書庫見学会の実施。

○ロビーにおける「ミニ展示」(展示ケース使用)、閲覧室における「蔵書紹介」(ディスプレイラック使用)、「特集展示コーナー」(西側書架使用)による所蔵資料の紹介

※「ミニ展示」で使用する展示ケースを2台増設、1台は地域資料を常設展示、もう1台は既存の展示ケース2台と併せて使用し、展示資料数を増やすことで、展示の充実を図る。

○閲覧室における「研究員オススメコーナー」(在室研究員による所蔵資料の紹介)

○「レファレンス協同データベース」(レファレンス事例データベース) (国会図書館運営)におけるレファレンス事例、および資料の調べ方マニュアルの作成と公開

○外部イベント(図書館総合展など)への参加、および外部機関における講演などの広報

○自動翻訳機使用による、外国語話者への対応

⑤講演会の開催

蔵書周知に繋がる講演会を、テレビ会議室システム(Zoom)およびYouTubeを使用して広く参加者を募るとともに、会場参加も可能なハイブリッド形式にて開催する。

⑥他機関との連携

○「国書データベース」(国文学研究資料館運営)への当館所蔵デジタル画像データ(古典籍資料(江戸時代の版本・写本)、書翰類)提供

○国立国会図書館サーチ(国立国会図書館運営)への所蔵資料データ提供

○港区内の専門図書館および港区立図書館を中心とした全国各地の他機関との連携

⑦研究者への所蔵資料調査依頼

所蔵資料の内、所蔵データが未公開の分野、また未調査の分野(雑誌・図案・語学書・経済書経営学・政治学・教科書・入試問題集・学習参考書・旅行書・紀行文・芸術・スポーツ等)の所蔵資料について、調査の依頼が可能な分野から、専門とする研究者に順次調査を依頼する。

⑧研修等への参加

専門図書館協議会や日本図書館協会が主催する図書館職員向け研修、文学館や博物館が主催する研修等に参加する。

図書館職員向けの研修では、例えば、図書館において生成AIを活用する際に必要な法律(著作権法)、災害発生時の資料救出方法、資料の利活用方法の具体例等、図書館所蔵資料の利活用に結びつく内容の研修を受講し、今後の図書館運営に活かす。

また、展示ケース増設により、展示にて紹介する資料数が増えることから、文学館や博物館等で実施する研修等では、展示方法についての考え方を知り、図書館には無い新たな視点や取り組み等を学び、今後の展示に活かす。

7. 収益事業(建物賃貸業)

2階の一部を賃貸する

- ①宗教法人増上寺へ貸事務所として
- ②公益財団法人全日本仏教会へ会議室として

2025年度の事業計画は以上の通りです。

2025年2月12日

公益財団法人 三 康 文 化 研 究 所
理 事 長 小 澤 憲 珠